

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

一般社団法人 日本保育者未来通信

② 施設・事業所情報

名称：ラフ・クルー元町保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：田村 彩香	定員（利用人数）： 60（62）名
所在地：〒231-0868 横浜市中区石川町2-64 プラザセレス石川2F	
TEL：045-633-2203	ホームページ： <a href="http://www.laugh-crew.net/">http://www.laugh-crew.net/</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2008年04月01日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社コミュニティハウス	
職員数	常勤職員： 20名 非常勤職員 6名
専門職員	施設長 1名 保育従事者 18名
	看護師 1名 栄養士 2名
	調理員 2名 子育て支援員 2名
施設・設備の概要	保育室 2室 調乳室 1室
	調理室 1室 事務室 1室
	医務室 1室 幼児用トイレ 5個

③ 理念・基本方針

【保育理念】

子どもの個性を尊重し、豊かな心を育て、たゆみない笑顔を創造します。

【保育方針】

- ・子どもひとりひとりが自分で考え行動できる自主性・自立性を育みます。
- ・本物の体験を多く取り入れ、豊かな感受性を育みます。
- ・集団生活の中で、社会性を身に付け思いやりの心を育みます。
- ・落ち着いた環境の中で、生きる力の基礎を育みます。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【労務環境を整え、職員が働きやすい職場づくりに努めています】

職員が働きやすい職場づくりとして、さまざまな労務環境を整えています。産休・育休については、男性職員、女性職員ごとに「ラフ・クルー産休・育休ハンドブック」を作成し、育児休暇に入る前に、労務担当が職員に説明しています。また、育児休暇後、復職する際に、コアタイム内での勤務時間であれば8時間勤務でなくても正社員としてみなす「育児シフト制度」を導入しました。さらに、短時間労働、延長保育料補助制度を導入し、取得実績も積んでいます。また、定数配置以上の職員を配置し、人員体制の充実を図ることで時間外労働の削減を行っています。また、永年勤続表彰の導入や、お泊り保育時の夜間勤務手当を新たに創設しました。また、1分単位での、残業代の支払いを可能にする体制が整えられました。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年 6月 20日（契約日） ～ 令和6年 2月 15日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	6回（2020年度）

## ⑥ 総評

### ◇特長や今後期待される点

【昨今の社会情勢等も踏まえ、常に子どもにとってより良い環境づくりに努めています】

全体的な計画を見直した際に、社会的責務とSDGsに対する法人の取り組みについて、「保育者の心がけ」の項目に具体的な内容を記載しました。記載内容は現場の保育者が取り組みやすいよう分かりやすい内容で示されています。一例として、「やさしさと温かいまなざしや愛情でゆったりと丁寧に関わることで、一人ひとりが安心して過ごせる人的物的環境を作る」や、貧困についての項目も設けられ、“経済的な貧困”とは別に“体験の貧困”を取り上げ「社会情勢や家庭での生活環境・成育歴から、個々に合わせた必要な援助や体験が積めるよう丁寧に関わる」ことが記載され、日ごろの保育実践につなげています。また、インクルーシブ保育についての項目には、「多様性（国籍や文化の違い、ジェンダーフリー、障がい）を知り、個々の人権が守られる人とのつながりを大切にする」と記載があります。

園では、子どもや家庭と協働して計画内容等にもとづいたSDGsに関するさまざまな取り組みが行われています。玄関には、SDGsの17の目標を掲示し、ペットボトルの蓋を収集する大きな容器が設置されています。ペットボトルの蓋が集まると、子どもたちが蓋を収集している近隣の事業者へ届けています。また、ベルマークを集め近隣の小学校へ届ける取り組みが行われています。SDGsに関する絵本を保育の中に取り入れることで、子ども自身の気付きにもつながっています。その他にも、常設されている製作コーナーで、使用した折り紙の余り部分を取っておくことのできるコーナーの設置をする取り組みや、プラスチック製の商品に示されているマークやプラスチックのゴミに該当する物の写真を掲示する取り組みをしています。このような取り組みにより、日ごろの生活の中でも、子どもからSDGsに関する意見が出るなど、生活の中にSDGsの意識が浸透してきています。

このような昨今の社会情勢等も踏まえながら、常に「子どもの最善の利益」「子どものやってみたいという気持ち」「保育者の願いと子どもの興味・関心」を出発点とした保育実践に取り組んでいます。WEBマップと呼ばれる手法を用いて、活動における子どもの姿や興味関心を書き出し、活動間の関連性などを可視化しています。さらに、積み重ねの中で醸成されつつある保育者同士で語り合うという、語り合いの風土の中で常に振り返りが行われ、具体的な実践につなげています。

【全職員で園全体の自己評価を実施し、具体的な取り組みにつなげています】

全職員で保育所自己評価に取り組んでいます。各クラスで2～3週間の期間を設け、「教育・保育の基本」「ねらい」及び「内容」、「健康及び安全」、「子育て支援」の項目ごとに、保育所保育指針に沿った具体的な内容について、多岐に渡った振り返りが行われます。園長は、各クラスから提出された振り返り内容をまとめ、職員会議にて、1ヶ月～1ヶ月半ほどの期間をかけて再度検討しています。検討された内容については、「保育所自己評価の結果について」として、昨年度の課題、課題に対する取り組み内容と状況報告、保護者の意見、次年度の課題と改善点をまとめ、保護者に公表しています。

昨年度の課題として、「園内研修の定期的な実施」、「保護者の障がい理解を促す（統合からインクルーシブへ）」、「保育の質の向上・職員の質の向上」を挙げ、具体的な取り組みにつなげています。「園内研修の定期的な実施」については、園内研修の年間計画を立て、月1回実施される職員会議の際に実施しました。看護師による保健・衛生、熱性けいれん対応等の研修、クラスの困り事のディスカッション、外部

講師を招いた環境改善の研修を全職員で受講するなどの取り組みを行っています。  
「保護者の障がいの理解を促す（統合からインクルーシブへ）」ことについては、園便りに障がいの特性に関する内容等を掲載する取り組みが、年間を通じて行われました。また、職員会議等で話し合い、選定された障がいに関する保護者向けの本を、玄関カウンターの貸出絵本コーナーに紹介文を添えて設置するなどの取り組みにつなげました。その結果、園便りに記載があった内容について保護者から意見が出るなど、以前に比べ障がい等に関する理解の浸透が感じられます。

【さらなる中堅職員の育成が期待されます】

園では保育理念である、「子どもの個性を尊重し、豊かな心を育て、たゆみない笑顔を創造します」にもとづき、園長を中心に、日々具体的な保育実践に取り組んでいます。

園長はクラスミーティングや月案ミーティングなど各種会議に参加し、「子どもの最善の利益」「子どものやってみたいという気持ち」「保育者の願いと子どもの興味・関心」などの視点にもとづいて、子ども中心の保育の振り返りを継続し、子どもの最善の利益の視点から話し合う風土が醸成されています。また、園長は常に地域とのつながりを大切に、町内会や商店街の会合等に参加して、園の概要等について情報発信をしています。現在、園内研修担当を園長から主任に移行するなどの取り組みや、中堅保育者を各クラスリーダーに配置し、保育実践や職員間の連携等について任せていく取り組みを行い、リーダー層の育成につなげています。結果、自身が担当するクラス体制だけでなく、他のクラス体制も考慮した、園全体の職員配置調整を意識できるようになり始めています。

今後は、現在園長が取り組んでいる、マネジメントの役割やファシリテートの役割、地域との連携などの取り組みを中堅職員に移行し、任せていくことで、さらなる中堅職員の育成が期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

・前回の評価から3年が経ち、改めて職員全員で評価分類・評価項目に沿って自園の保育を振り返ることで、保育の方向性や、保育士が行っている保育実践の細かな部分を各自が確認・認識できたと感じている。また前回第三者評価を経験していない保育士も、担任同士話し合い、園全体で確認することで、園の方針等の理解に繋がったように思う。

・日頃行っている保育内容の良い点を客観的な視点でお伝えいただけることで、保育士の保育への意欲、意欲からの保育の質の向上に繋がっていくと感じる。

・前回受審した際に改善・向上しなければならない点が第三者の視点で明確化され、中長期的な課題として、園内研修の定期的な実施、保護者への障がいの理解が課題となった。それぞれの課題に対し3年かけ園全体で取り組む。

同じ評価機関に評価していただくことで、課題に対しての3年間の経緯や経過、保育実践をより具体的に評価していただくことができ、自園が課題に対し行ってきたことが明確化され、より具体的な保育所自己評価に繋がった。

また新たな中長期的な課題が明確化されたので、園全体で取り組んでいきたい。

自己評価ガイドラインにも記載があるように、「外部からの視点の活用」を意識し、外部評価の結果から広い視野で園全体の課題を捉え、3年かけて職員全体で同じ方向を向き取り組めたことは、組織にとっても向上のきっかけとなりました。

新たな課題に対しても引き続き全体で取り組んでいきたいと思っております。

ありがとうございました。

⑧第三者評価結果  
別紙2のとおり